

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 汰功樹会 わくわくキッズ倶楽部いこいの家		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日		令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日		令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児が使用できる部屋が2カ所、相談室を開放すると3カ所あり、利用児の状況に合わせて使い分けしやすい。 ・デッキがあり、天気の良い日は開放することで空間を広く使用できる。	・大部屋は子どもたちにとって開放的であるがゆえ、走り回り危険な状況を作り出すこともあるため、遊具の設置の仕方、活動の取り組み方の工夫をおこなっている。	・法人内に事業所が複数あるため、他事業所との交流を積極的におこなっていきたい。 ・土曜日等、利用児が多く集まる日には近くの公園にでかけるなど課外活動を現在よりも増やしていきたい。
2	・理学療法士、運動の知識に長けている職員が事業所内にいることで日頃から専門的な支援をおこなうことができている。	・活動内容が固定化しないように日々職員間でアイデアを出している。 ・専門職の意見を全職員で共有することで全体的な資質の向上を図っている。	・引き続き、事業所での取り組みを毎月のおたよりや定期的なブログ更新で多くの人に発信する。
3	・原則として事業所への利用児保護者の見学を自由に行っている。 ・療育についての情報提供を必要に応じておこなっている。	・保護者への情報提供の為に利用児の活動内容を細かく記録するようにしている。 ・保護者の希望に応じて参観をおこなったり、クリスマス会等では保護者参観日を設定して保護者同士の顔合わせができる機会を設けている。	・事業所からの一方通行な支援にならないよう、保護者が事業所に対しての意見、気持ちを遠慮せず言えるような関係性を築いていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・異年齢、認知面の差から、活動の難易度設定に悩むことや、利用児にとっては簡単すぎる、あるいは難しすぎるといったことが起きてしまうことがある。	・同年代の利用児を曜日ごとに集めると活動もおこないやすいと思うが、現在は保護者の希望通りに利用日を決定しているため1日の利用児の年齢差が大きくなっている。	・活動によっては年齢、認知面を考慮して2グループに分けて取り組む。 ・利用児がそれぞれ達成感を得られるように同じ活動の中でも難易度設定の工夫をおこなう。
2	・保護者会等を開催し、保護者同士やきょうだいが関わりを持つ機会を設けることができていない。参観日を設けているが、直接的な関わりは持っていないのが現状。	・保護者の中には保護者会を負担に思う人や、療育という場で深い関わりを持つことに抵抗がある人もいないのか、との考えから、保護者会や茶話会等の開催に踏み切れていない。	・保護者にアンケートを取るなどして、保護者会や茶話会、きょうだい児が参加する行事等の需要を把握する。保護者の意見をもとに開催を検討する。
3	・トイレが1つしかなく、利用児が多い日には時間がかかる。大人用トイレであるためおまるを使用しているが、不便さはある。	・もともと一軒家であるところを借りているため、トイレが療育用に作られていない。	・利用児が多い日には時間ごとに利用児に声を掛け誘導する。 ・低年齢の児は同時にトイレに行くことでおまるや踏み台の準備や片付けを一度におこなえるようにする。